

EVENT MARKETING 88

発行所：株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABCビル 4F-A
TEL.03-6721-5303 sof@event-marketing.co.jp

TAKE FREE

www.event-marketing.co.jp

展示会開催宣言！
一般社団法人
日本エレクトロニクスショー協会
Inter BEE ディレクター

小田 佳代子さん



エレガントに先駆ける



(表紙写真提供：「ボルシェ・エクスペリエンスセンター東京」(PEC Tokyo))

「ボルシェはいつから電気自動車をつくっていると思いますか」

ボルシェ初のフル電動スポーツカー、タイカン専用インストラクターの運転によるデモンストレーションラップで体験した後、EVカー講座で誕生の背景を聞いた。

実に100年以上も前からボルシェは電気自動車にチャレンジしているのだそうだ。それほ

ど遡るとは思わなかったことと、理由にも驚きと発見があった。

1898年、最初のEVカーである2輪駆動電気自動車ローナ・ボルシェが誕生した当時、街はエンジン音が賑やかな自動車ばかりで、騒々しかったそうだ。そこで、静かでエレガントな車をつくったというのがEVカー誕生のワケだった。

昨年10月に世界で9番目、日本では初めてオープンした「ボルシェ・エクスペリエンスセンター東京」(PEC Tokyo)では、特殊なコースでボルシェの機能性を思う存分に体験することができる。PEC Tokyoで行われた「女性ドライバー向けイベント Driven Female Program」では、加速の滑らかさと安定した操作性など身をもって感じられるほかに、講

座でのインプットもある(参照記事=7p)。プログラムを企画した担当者の女性は、「新しいことを知りたい」という探求心を構成に組み込んだという。

身体と頭とで集中して体験した最新の技術を、好奇心と探究心の強い参加メンバーと共有して、ファン心理というものの感触を掴んだインパクトのある時間だった。

オンラインでも オフラインでも、

**ビジネスイベントのお悩みは
イベントレジストにお任せください!**



申込受付を統合管理

- ・ウェブ事前受付、オンライン決済
- ・イベントへのスマートチェックイン
- ・動画、ライブ配信の申込者のみの視聴制御



ワンストップで対応可能

- ・企画 ・会場手配 ・デザイン / 施工
- ・運営進行 ・撮影 / 映像 / ライブ配信
- ・申込サイト制作



ビジネスイベントの実績多数

- ・カンファレンス ・セミナー ・展示会
- ・ウェビナー ・オンラインイベントなど



イベントレジスト株式会社
<https://eventregist.com>

資料請求・お問い合わせ
contact@eventregist.com



Idea+ イベントの映像 新しい挑戦

NFT・ブロックチェーン・3DCG・XR・web3、メタバース。オンラインイベントの時代を経て進化してきた映像による体験提供。いよいよ会場でイベントが開催できるようになってきたいま、以前の姿に戻るのではなく、どう進化していくのか。最新の技術や実用化、各社の取り組みを紹介し、また現在の課題と未来予想図を考える。

Art + 高知城 ひかりの花図鑑 - 牧野富太郎と植物を愛した画家たち -

没入感高める明確な演出意図と技術のバランス

来春放送のNHK連続テレビ小説「らんまん」で、神木隆之介が演じる主人公のモデルとなった天才植物学者牧野富太郎博士。その故郷の高知城をキャンパスに、彼の精緻な植物画と同時代を生きた世界のアーティストの作品が融合、投影される。演出を手がけた(株)タケナカの長崎英樹さんにかかった。

どこにもない、ここだけの 絵画を体験する映像



日本三大夜城の高知城に投影

12月2日から来年1月29日まで、「Art+高知城 ひかりの花図鑑 - 牧野富太郎と植物を愛した画家たち -」が実施される。高知城は、江戸時代以前に建造された現存12天守の1つで、本丸の建物がすべて残る唯一の城。近年はイルミネーション&プロジェクションマッピングが実施され、日本三大夜城としても知られる。

日本植物図鑑を出版した牧野博士の線画は学者ならではの観察眼と精緻な描写で、美術



12月2日から開催される「Art + 高知城ひかりの花図鑑 - 牧野富太郎と植物を愛した画家たち -」

書として現在も愛好する人が多い。「博士の事績を紹介し、植物の美しさ、ゴッホやモネの絵画の芸術性、それらをデジタルコンテンツの楽しさで繋ぎ、『どこにもない、初めて見る、高知城だけ』の体験を提供するのが私たちの役目」とプロデューサーの長崎英樹さんは語る。

観光客が城を訪問した後に、アートや植物のことを好きになるのがゴールだ。

演出意図を正確に再現し 無意識下にストーリーを

植物という動きの少ないもので、見る人を

没入させるには、よみうりランドのフラワーパーク「HANA・BIYORI」での経験が活かされた。

映像や音響技術の前にまず「どう動かして、どう見せるか」と演出意図を明確にする。それを細部まで正確に再現する技術が、見る人を違和感なくコンテンツの世界に引き込む。

来場者は本丸の各所でそれぞれのコンテンツを体験する。ホログラムや、インタラクション、霧に映像を映す、没入感の高い空間など多様なしかりで、牧野博士や世界の画家のコーナーを体験しながら、植物の画像をアプリで収集。映像を生成したり、記念写真を撮っ

NISHIO

RA(イベント)部門の
新しいWEBサイトが
OPENしました!!

<https://www.nishio-rent.co.jp/rental/>

TOTAL POWER by NISHIO

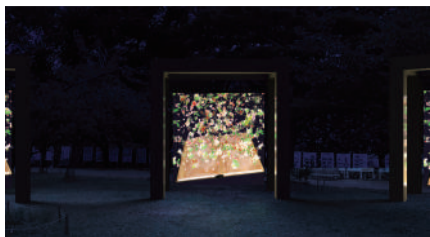
展示会・イベントの
持続可能な未来を目指して

国内最大級の
ディスプレイ製作
スタジオ

プロジェクト企画
デジタル施策
ワンストップの製作体制を完備
装飾・施工
イベント運営
空間設計
ビジュアルデザイン

SHOEI
THINK YOUR VISION

株式会社昭栄美術
〒104-0044 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー25F TEL:03-5148-6651



さまざまな映像演出を楽しめる



城のあちこちにあるコンテンツを巡る

たり、自分だけの植物図鑑ができあがる。屋外の音響は、風など外部環境を考慮しなければならない。音の発生する位置や方向、音圧を微調整しながら質の高いイマーシブオーディオを活用。別のコンテンツの音が干渉してしまうと、どんな音もノイズになる。

順路の最後は天守閣に投影するプロジェクションマッピング。誘導アナウンスはなく。人が自然に流れていくのは、演出によるストーリー性。

映像の視点移動が大胆になったり、楽器の編成は徐々に厚く、打楽器の音も力強くなり、クライマックスに向かっていくことを感覚に訴える。フィナーレは牧野富太郎が愛した植物の絵を画面全体に展開。そこから静寂のエンディングで、来場者が満足感を感じる時間をつくる。

大切なのは、“演出”を感じさせないこと。違和感をなくす細部へのこだわり、演出と技術の調和とバランスが、リアルイベントの映像で最も進化したポイントではないか。



株タケナカ 専務取締役 シンユニティグループ **長崎 英樹さん**

開催概要
「Art+ 高知城 ひかりの花図鑑 - 牧野富太郎と植物を愛した画家たち -」
 会期： 12月2日～2023年1月29日
 時間： 各日 18:00～21:30 (21:00 最終入場)
 会場： 高知城・高知公園 (二ノ丸・三ノ丸)
 入場料： 通常 大人 1,000円、中高生 700円、小学生 500円

海外事例に学ぶ

VIVID SYDNEY の舞台裏

9月18日、「世界最大級の光の祭典 VIVID SYDNEY の裏側に迫る - フェスティバルディレクター講演決定!!」として、六本木アカデミーヒルズで「VIVID SYDNEY」フェスティバルディレクター Gill Minervini さんの講演会が開催された。今年 250 万人が訪れ、2019 年にはニューサウスウェールズ州に 1 億 9700 万ドル (約 255 億円) の経済効果を与えた「VIVID SYDNEY」の舞台裏を語った。成果を上げ続けている海外事例から成功のヒントを学ぶ。



「VIVID SYDNEY 2022」では、50のライティング、34の光のインスタレーション、12のプロジェクションマッピングが街全体を彩る8kmにおよぶナイトウォークを制作。街を光のキャンパスに見立て、光と音楽、創造性を融合させたイベントに250万人が訪れた

講演に登壇した「VIVID SYDNEY」フェスティバル・ディレクター Gill Minervini (ギル・ミネルヴィーニ) さんは、9月に東京で開催した光の祭典「TOKYO LIGHTS2022- プロジェクションマッピング国際大会-」の審査員として来日。講演会ではTOKYO LIGHTS2022 実行委員会副委員長兼国際大会総合プロデューサーの石多未知行さんがモデレータを務め、イベント・映像関係者、地域ブランディング・観光業・ナイトエンターテインメント関係者などが参加。国際的イベント育成や地方創生など、同じ課題に向き合うクリエイター、ステークホルダー同士で、濃厚な時間を共有した。

ギルさんは2021年に「VIVID SYDNEY」ディレクターに就任。2020・21年はコロナ禍で中止となり、今年が初ディレクションとなった。講演会では、「VIVID SYDNEY」の歴史や目的、250万人の来訪で、成功裡に終えた今年の実施内容や将来的なプランについて語った。

VIVID SYDNEY



「VIVID SYDNEY」フェスティバルディレクター Gill Minervini さん

数字でみる「VIVID SYDNEY 2022」

- ・来場者:250万人(2019年比7.5%上昇)
- ・オープニングナイト来場者:14万人
- ・「VIVID SYDNEY」会期中に食事をした人:210万人
- ・公式サイトへのアクセス数:270万
- ・ボランティア参加人数:1万1000人(18~89才)

益を上げていますからね(笑) (ギルさん)

「VIVID SYDNEY」の主催者はニューサウスウェールズ州。大規模イベントになればなるほど、自治体やスポンサーなど関わる数も増え、多くの意見や要望を取り入れながら進めることの難しさは世界共通だ。でも、さりと、イベントデザイナーの責任として、結果へのこだわりと権利の行使への意思を感じた一言だった。

元々、観光的にローシーズンであったシドニーの冬の夜に、人を集めるには?という課題から始まった「VIVID SYDNEY」。コロナ禍前の2019年を上回る来場者を今年集めたジルさんから次回プランを聞いて、「次はどんな新しいことを仕掛けるんだろう」と彼女のアイデアにいまから期待してしまったのは、きっと私だけではないだろう。

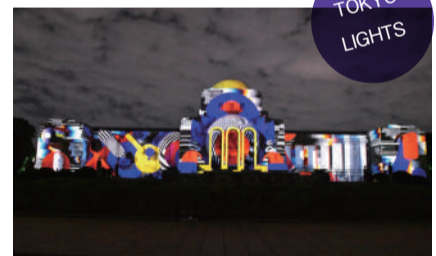
印象深い2つのメッセージ

「VIVID SYDNEY」が2009年に第1回をスタートした際には、オペラハウスにプロジェクションマッピングをするローカルイベントだったというが、現在では南半球最大の光の祭典となり、成長し続けている。講演では、アップデートを重ねた上でいまがあるという多くの気づきが散りばめられていた。なかでも印象深かった2つのメッセージを紹介する。「常に新しいことを用意すること。『前回とは違う』をリピーターに提供するため、アクティビティやアーティスト、パートナーの一新を含め必要です」(ギルさん)

例えば、毎年新しいメニューの開発しており、今回は22の新規メニューが加わっている。「100年以上使われていないトンネルでのレーザーショーを実施するのに、説得に1年かかりました」と話す。

もう一つは「主催者の意見も聞くけれど、最終的なイニシアティブはディレクターである私がとります。もちろん、使ったコストより取

TOKYO LIGHTS



TOKYO LIGHTS 11月に再開。台風の影響で9月開催の一部日程が中止となった「TOKYO LIGHTS 2022」は11月11日～13日に明治神宮外苑 聖徳記念絵画館 及び 明治神宮外苑 総合球技場軟式球場にて再び開催されることが決まった

展示会 イベント スケジュールは **Web** で **無料** の イベントマーケティングウェブサイトへ <https://www.event-marketing.co.jp>

9月～12月の展示会・イベントスケジュール

東京・名古屋・大阪・神戸・京都版 **全国版**

2020年9月の展示会・イベント・開催スケジュール (全版)

① 無料、登録不要で、いつでもアクセスできる。 ② 一覧表と詳細表示が切り替えできる。 ③ 月ごと、地域ごと、毎週のスケジュールが確認できる

④ 展示会以外のイベント情報も掲載 ⑤ イベント情報の掲載も無料

運営会社: 株式会社 MICE 研究所

Mika + Rika

EVENT MARKETING からの大事なお知らせ

企業カンファレンス **地域特集**

次の11月30日号で特集します

実は企業戦士なんです、ワタシ

22年12月28日号 社内イベントとエンタメイベント
 23年1月31日号 BACKSTAGE2023の歩き方
 23年2月28日号 空間ディスプレイ特集
 23年3月31日号 イベント会場特集
 23年4月30日号 SDGs 実行白書 - イベント編 / 映像特集

広告出稿の問合せはこちら ▶ 株式会社 MICE 研究所 info@event-marketing.co.jp (担当: 田中力)

シーマ / KAIROS

IP化で変わるイベント映像の現場



IT/IP映像プラットフォーム「KAIROS」

近い将来、大型カンファレンスの映像オペレーションが一変しそうだ。放送・映像機器がIP（インターネット・プロトコル）化する。

映像演出をてがける(株)シーマは、パナソニックが開発したIT/IP映像プラットフォーム「KAIROS（ケイロス）」を導入。販売も行い、

「この一瞬がつながる」がコンセプトのKAIROSの活用で、イベント映像の現場に新たなワークスタイルをもたらす。

これまではカメラとレコーダーをHDMIやBNCケーブルで繋いで映像信号を送っていたが、IP化すると普段PCで使っているイーサ

ネット（LAN）ケーブルで接続してインターネット通信でデータを送る。プロ品質の撮影・編集・配信をソフトウェア上で行う。

イベント会場や撮影現場の機材をPCと周辺機器をつなぐように、施工時間を大幅に短縮。夜中の施工も多いイベントの映像スタッフや会場側の負担が大幅に改善できる。映像規格の制約がないので、保有する機材を有効活用できるのも大きなメリットだ。

そもそもスタジオや会場に機材やスタッフが集まる必要もなくなる。IPやクラウドを経由してそれぞれの機材・スタッフを繋げば、現場には照明とカメラだけでもいい。ディレクター、スイッチャー、オペレーションスタッフは、控室にいても操作が可能だ。自宅でも日本全国、いや海外でもいい。リモートワークが映像の現場でも実現する。

ソフトウェアプラットフォームのメリットはITベースで自由度が高いこと。その1つがハードウェアに依存しないマルチレイヤー構成。テレビ放送では、テロップや文字情報など画面を構成するレイヤーは10以上になることも多い。ハードウェアスイッチャーなら1台で4レイヤーなどといった制限（ME数、KEY数）

があり、スイッチャーを複数台繋がないといけないが、KAIROSはメインフレームGPU処理能力の限界まで、ほぼ無限にレイヤーを重ねられる。自由な画面レイアウト、挿入する動画や静止画、演出効果などの素材もの編集も自在だ。

スイッチャーというよりメディアサーバーという感覚で、PCを何台もつないで、複数のスタッフがそれぞれの作業を同時に行える。リハーサル中にディレクターの指示でコンテンツを修正することも可能で、時間に追われるイベントの現場ではありがたい。

シーマ所有のKAIROSは最大64入力/40出力まで使用できるので、大人数アイドルグループの中継も1台で可能。イベント会場などで複数の映像出力も一括管理できる。

映像制作の自由度をあげ、ストレスを解消することで、イベントでの映像演出の品質がさらに向上しそうだ。

(株)シーマ
プロジェクト推進室
ネットワーク事業推進
チーフテクニカルディレクター
坂本 光さん



ヒビノメディアテクニカル

制作・演出向上しリアル会場は大型映像化

展示会や学会、表彰式などを中心にMICEイベントの映像演出を手がけるヒビノメディアテクニカル(株)。コロナ前は業務用機材を現場に大量に搬入・施工する大型イベントの映像オペレーションを行ってきた。しかし、この2年間は、オンライン配信事業が中心となっていた。同社のレンタルPCの台数は2倍に増え、多くのオペレーターをあちこち現場に派遣する

ようになった。スタッフの配信スキルは目に見えて向上していった。

オンラインでは、会場デザインや演出など映像に依存する部分が増えるため、イベント全体の制作を手がけることが増えた。そこで見えてきたのが、表彰式やセレモニー系の催事の建付けが、オンラインでは大きく変わることだった。

リアル開催では、ステージ上も観客席も、いるのは招待された成績優秀者。お互いを讃え合う熱気で会場を包み込む。オンラインでは関係者すべてが参加するため、「あの人と一緒に仕事をしてみたいな」、「あの人のようになりたい」という憧れを抱かせるため、様々な企画を駆使して、臨場感と豪華さを表現し演出する。多くの人が想いを共有するためにメッ

セージや、コメントを事前収録したり、映像で分かりやすく表現することが増えた。映像制作の仕事もすることが増え、また新しいスキルを習得した。

昨年の秋からリアル開催の現場が少しずつ戻ってきた。昨年オンライン配信で行ったコンテンツイベントでは、臨場感と豪華さを表現した企画を制作し、舞台や花道などARやXR技術を使用して映像演出したが、今年はリアル開催。舞台装飾や照明やレーザーなど特殊効果のコストがかかり、演出機材を天吊りする会場も必要となる。予算と効果の兼ね合いが難しい。

その選択肢の一つとなるかもしれないのが、大型LEDビジョンだ。ヒビノメディアテクニカルでは、このほど2.3mmピッチの高精細屋内用LEDパネル300インチ、床用LEDパネル200インチ分を追加導入した。壁面全部を映像にして自由に舞台チェンジをしたり、タテ型に組んで等身大にすれば実際の演者と映像を入れ替える演出も可能。投影映像が登壇者に

映りこむ心配もないし、それを避けるために、プロジェクターのリア打ちも不要になる。オンラインのXR演出も格段に高品質なものに。グループ会社でも同じ製造ロットの製品を仕入れており、クロスレンタルでより大型の映像演出にも対応する。

進化した映像演出に慣れたイベント参加者の、映像の大型化、高輝度、高精細、豊かな色域表現への要望は高まる。費用対効果が問われるBtoBイベントのなかで顧客満足と予算の最大公約数を出すプロの企画力と提案力、そして最新の技術力がヒビノメディアテクニカルの新しい力になっている。

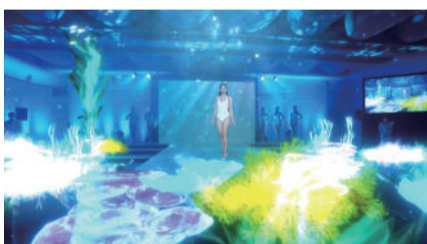
ヒビノメディアテクニカル(株)
EC事業部 部長

竹島 哲也さん



ヒビノメディアテクニカル(株)
プロデュース事業部 部長

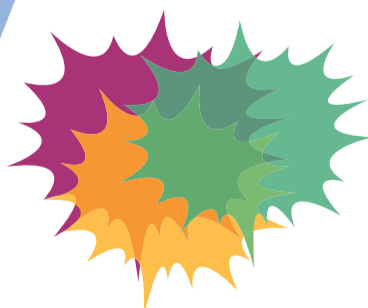
波多江 修平さん



AR、XR技術で演出

イベントの**集客**に

展示会関連 **販促**に
サービスの



Event Buzzle

イベントをもっと楽しく、簡単に

主催者の方々は、イベント参加者を満足させることに集中して欲しい。そんな想いから生まれた、イベント主催者向け情報サイトが「イベントバズル」です。イベント会場、集客ツール、運営サービス、ケータリング、などなどイベント開催に欠かせない情報を、ワンストップでチェックできるサイトを目指しています。いま、イベントバズルは、皆さまのお役に立つため、さらに見やすく、さらに情報を増やして、生まれ変わろうとしています。



<https://eventbuzzle.com>

テルミック・ショールーム Expot

装置と映像の動きが生む体感

テレビ番組やコンサートに電飾や機構などを提供している(株)テルミック。今年オープンしたショールーム兼実験場「Expot」には、映像と体験の新しいアイデアが満載だ。

高精細ビジョンを組みこんだ「テルスタ」は、ハリウッド映画の多くが採用するバーチャルプロダクション空間。センサリングしたカメラ位置と向きに合わせて3D映像がリンクして動き、CGによる背景映像と実在の被写体を同時撮影する新しい形の実用を目指す。

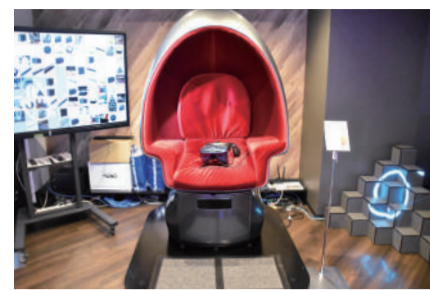
ドッキリ番組の落とし穴や昇降・回転する機械など、テルミック創業以来の舞台装置の

技術と、映像技術を組み合わせたキネティックディスプレイ。背景映像の動きとモニターそのものが動き、モニター内の映像の動きと3つの動きが、不思議な感覚をつくりだす。

VRゴーグルをつけて、たまご型の筐体に入り込むと、パーソナルな没入型空間でXR体験ができる「NDR」は日本ではここでしか体験できない。高解像度VRHMD、360度の横方向回転と前後の動き、体感フィードバック装置(振動装置)モーションプラットフォーム、アロマエフェクト(オプション)など、特許取得技術を含む機能で、五感を激しく刺激する



スタジオとしても使える「テルスタ」



XRライド「NDR」

体験ライド。体験前には体調を整えていくことを推奨。人気アニメ作品を含む7つのコンテンツや、オリジナルの制作にも対応している。

エントランスと入口付近にはさまざまLED電飾を展示。映像データで電飾を制御したり、2線式で制御信号を送れるE12パネル球サイズのフルカラーLED、電飾や舞台の花道用に上下から見えるLEDバーなど、技術者が喜

ぶアイテムも揃っている。動画レポートは本紙YouTubeチャンネルで公開する。

子どものころ見たテレビ番組のワクワク感。そのギミックが今も進化を続けている。



(株)テルミック
事業開発部
営業・広報チーム

岡本 智行さん

昭栄美術

空間施工から逆算した映像づくり

展示会やイベントの空間デザインと施工を手がける(株)昭栄美術は、2015年ころから映像機器のレンタルも開始した。

商品説明用のモニターを設置するほか、ブース内セミナーや、プレゼンのライブ中継を行うなど、映像・音響機器を用いることが増えた。そこで専門会社への外注から、自社でワンストップサービスを開始し、全体最適化を図ることがきっかけだった。

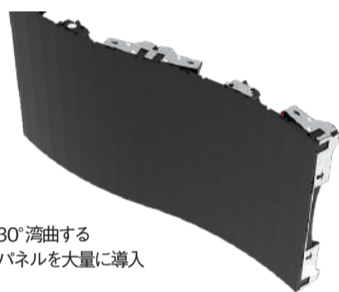
そうした経緯もあって、同社の映像サービスの強みは施工と一体となっていること。倉庫にある映像機器の備品は他では見られないものが多い。オクタノルムやマキシマといった展示ブースのシステム部材に合わせた取付金具。太い柱に固定するための部材もある。映像メーカーの金具ではサイズが合わなかったり、調整が必要だったり、現場で苦労することも多かったという。

もう一つのメリットは、ブース全体の企画・デザインのなかに映像演出を含めて提案できること。モニターやLEDビジョンは映像を流すだけでなく、製品情報のパネル展示やデザイン装飾の役目も果たす。テンションファブリックと組み合わせたシームレスな表現など、



株昭栄美術
第2製作部
映像課 課長代理

片岡 勇佑さん



最大30°湾曲する
LEDパネルを大量に導入

造作と映像を一体化した空間づくりが可能だ。SDGsへの貢献度も高い。

ブース施工だけでなく、展示会主催事業のサポートや、企業カンファレンスの運営を手がけることも多くなっており、1つの案件に100台を超えたモニターを提供したり、大型の映像演出も行うようになってきた。そうした需要に応えるため、昭栄美術ではモニター500台を在庫、LEDビジョンも大量に導入した。装飾のなかに自然と映像が組み込まれた空間をつくっていく。

セミナー運営などオペレーション人材も増強。収録・編集・配信などのそれぞれ専門分野に強いスタッフと外部の協力会社で、イベントの映像を支える。

西尾レントオール

大型化と人をつなげる映像

コンサートやスポーツイベントの中継車の運用、配信スタジオの運営、さまざまなイベントの映像演出を手がける西尾レントオール(株)のビジュアル営業所。徐々にコンサート、スポーツ大会、企業イベント、展示会などリアル現場に戻ってきた。

海外からの入国制限が大幅に緩和されたこともあり、外資系企業のイベントもすでに活発になっているという。彼らのイベントでも、大型映像を使った演出が多くなっている。LEDパネルの低価格化によるコストパフォーマンスの向上、LEDパネルが軽量化しホテルのバトんでも大型のものが吊れるようになってきたことも要因となっているようだ。

企業イベント・展示会でも約100インチクラスの大型モニターやLEDビジョンを設置するケースも増えており、10月18日から幕張メッセで開催された「CEATEC 2022」には新たに導入したLEDパネルも多数投入した。

一方、リスクヘッジのために、配信も行うハイブリッド需要もいまだに多く、配信管理、パソコン操作、スイッチングなどのオペレーションスタッフが必要で、リアル担当も含めて、多くの人手が必要になっている。業務負担は



西尾レントオール(株)
ビジュアル営業所 所長

石田 裕さん



「NEW ENERGY TOKYO」で「人とヒトをつなげる映像」を創出。今後も映像の持つチカラ可能性を追求していく

大きいものの、5Gやメタバースなど、新しい領域との接点ができている。また、配信業務を行うことで、屋外のテントやトラス、床養生などイベント関連機器・備品のレンタルだけでなく、映像や中継、イベント運営までワンストップで対応できる企業と認知されてきている。

9月8日から11日までの4日間、新宿三井住友ビル三角広場で開催されたクリエイションの祭典「NEW ENERGY TOKYO」では架空の街をイメージした会場にLEDパネル(短冊形)や大型ビジョン、インスタレーションのカメラ演出を提供し、多くの注目を集めた。

今後も「人とヒトをつなげる映像」として、映像によるコンテンツ力の強化と、レンタル市場の可能性を追求していく。

BACK STAGE

Save the date

2023.02.09

開催決定

展示会 開催宣言!

Inter BEE 2022

出展社数1.8倍で ハイブリッドに展開



一般社団法人
日本エレクトロニクスショー協会
Inter BEE ディレクター

小田 佳代子 さん

11月16日から18日に幕張メッセ会場、そしてリアルに先行する形でオンライン会場を11月1日からスタートさせ、ハイブリッドに展開する「Inter BEE 2022」。Inter BEE ディレクターの小田佳代子さんに、前回との違いや今年のみどころについて聞いた。

音と映像と通信のプロフェッショナル展示会「Inter BEE 2022」では、昨年に引き続き、幕張メッセのリアル会場とオンライン会場を組み合わせ合わせた開催形式を選択し、それぞれのメリットとInter BEEならではの出展製品特性に最適化して、展示、セッションが展開される。今回、昨年と大きく異なるのは、オンライン会場がリアルの幕張メッセ会場の会期より約2週間先行し、11月1日からスタート。前回はオンラインとリアルは同時スタートだったが、オンラインを先行させることで出展各社の展示情報の事前発信を強化する。また、コンファレンスもプレセッションを配信して予習の機会を提供する。

Inter BEE ディレクターの小田佳代子さんは「幕張メッセ来場前に、情報のインプットをしていただき、リアルでは実際の体験や直接のコミュニケーションという展示会の醍醐味を感じていただきたい。幕張メッセでの3

日間終了後も12月23日までオンライン会場はオープンしており、コンファレンスのアーカイブ視聴や資料ダウンロードなど、約2ヶ月の長い期間で、幅広く活用いただけるよう用意しています」と、事前・対面・事後と三段構えのコミュニケーション設計で参加者を迎える。

出展社数は前年比1.8倍
規模は1.5倍

昨年、2年ぶりのリアル開催での出展社アンケートでは「直接商品の説明し、商談することができた」「新規のお客様と出会えた」と対面式での開催や顧客開拓の場としての展示会に手応えを感じるコメントが多かったという。一方で来場者アンケートでは、特別企画やコンファレンスがリアル会場では実施されなかったこと、また、「もっと多くの展示が見たい」との声が寄せられた。

今回の出展社数は、前年比1.8倍、規模は幕張メッセのホール4からホール8と1.5倍の展開となり、「2019年の規模までの回復は道半ばですが、出展社の期待を感じます」と小田さんは継続出展社の回帰だけでなく新規出展社の裾野の広がりにも注目する。

「今年の出展の傾向としては、キーワードとしてバーチャルプロダクション、メタバース、放送と通信の融合による新しいビジネスマッチングが挙げられます」(小田さん)

バーチャルプロダクションは、昨年 In-Camera VFX のデモが注目されたが、今年は展示ブース内で関連展示にも広がるのが期待される。特別企画においては、実際の制作現場の声や制作手法などを直接聞ける機会を設ける。また、放送局が手掛けるバーチャル空間

が各地に広がっていることから、関連展示にも期待がかかる。

「放送事業者の方々だけでなく、ここ数年は動画配信も進み、みんなが放送人になっています。Inter BEEではプロから初心者まで『こんな映像が作りみたい』が相談できる場所。体験やコミュニケーションを通じて、新しい発見をしにいらしてください」(小田さん)



In-Camera VFXのデモは昨年注目を集めた。今年はバーチャルプロダクション関連機器やスタジオを紹介するブースへの広がりも

加速するメディアの進化と未来に出会い、
体験し、対話するビジネスイベント

#interbee2022



Now, we just wait
for everyone to gather!!

Broadmedia & Entertainment

Inter BEE 2022

幕張メッセ:11月16日(水)▶18日(金)

オンライン:11月1日(火)▶12月23日(金)

入場事前登録受付中!!

完全Web登録制:入場事前登録のうえご来場ください。

最新の展示会情報はこちらから▶www.inter-bee.com

お問い合わせ:一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会(JESA) E-mail:contact2022@inter-bee.com

今すぐ
登録!

68 電力 処理能力 需要

100%

Inter BEE のリアル開催、盛り上がりそうだね

今年は展示の熱が開催前から伝わってきてます。電気工事だけでなく、色々な企画でサポートします

株式会社 鈴木電機

〒111-0033 東京都台東区花川戸 2-12-5
TEL 03(3842)8201 (代) FAX03(3845)3040
URL: <http://www.suzukidenki.co.jp>

研

Venue
Event
Community

集い、交わる場(中規模スペース・ベニュー/イベント主催者)を企画・運営するひとたちが集まって、べちゃくちゃおしゃべりしながら、よりよいベニューづくりを考えるコミュニティ

イベントツールの デモ体験

会話のきっかけをつくるリモート接客サービス SAPI-MO

—— サビエント

展示台の前をウロウロしていると、「こちらの製品にご興味がおありですか？」と画面の向こうから声をかけられる。

イベント人材派遣やショールームの運営などを手がけるサビエントが提供する、リモート接客サービス「SAPI-MO」のデモを体験してきた。バイヤーが展示会場に来場し、出展者が社内や自宅などからリモートで接客する半バーチャルでの使用を想定している。

既存の Web 会議システムとの違いは、出展者から声かけをして、来場者とのコミュニケーションを促進できる点だ。会議システムは、打合せ相手と事前に時間を決めて行う設計。初対面の相手との接点づくりには適していない。モニターに表示された打合せ開始ボタンを押すことは来場者にとって高すぎるハードルだ。

SAPI-MO は、来場者の動きを AI で検知してオペレーターに通知する。その際に広角カメラで、展示台周辺での来場者の動きを記録して、どの製品に興味をもったか、どれくらいの深い関心をもっているかもわかる。その情報をもとに、オペレーターが



リモート接客に必要な、経験豊富な「人材」と通信機器を搭載した「システム」がセットになった「SAPI-MO（サビーモ）」

声かけのタイミングや話す内容を判断できる。「相手の顔がパッと映って急に話せと言われたら、接客は絶対にうまくいかない」とサビエントの柳谷小百合さんは言う。

スライドや画像を使って説明するのはもちろん、流れで会話が脱線しても、ウェブ検索した画面を共有して話せる。また、手元を映すサブカメラを用意して、来場者もその映像にオペレーターがペン機能を使って説明するなど、会話以外の画像情報も使った双方向コミュニケーションができる。「これが、こうなって、こうして」という、言葉だけでは通じない話も、まるで隣にいるかのように通じて、リモート接客のストレスを解消する。

プリンターの使用も推奨される。商談や会話した内容をメモにして渡すことで、情報接触の機会を増やす。「その場で話して終わりにほしくない。QR コードで関連情報を案内するのも便利」と小島千佳さんは話す。

話かけるきっかけとタイミングつかむ、ビジネスの最初の一步を大切にしたい。



サビエントコンテンツグループ グループリーダー 柳谷 小百合さん (左) グループチーフ 小島 千佳さん (右)

イベントレポート

ポルシェ・エクスペリエンスセンター東京



「女性ドライバー向けイベント Driven Female Program」

「ポルシェ・エクスペリエンスセンター東京」(以下 PEC Tokyo) 内レストラン 906 のランチタイムでは、参加者同士、体験したばかりの 90 分間のドライビングプログラムについて、興奮冷めやらぬうちに会話に花が咲く。「8年ぶりの運転だったけれど、特別な体験だから全部チャレンジしました」という声も。全長約 2.1 km のハンドリングトラック、ドリフトサークル、ダイナミックエリアなど、PEC Tokyo にはポルシェ車の性能を思う存分体感することのできるコースがあり、世界では 9 番目、日本初の体験型施設となっている。

10月19日、施設開業から約1周年の記念と、女性ドライバー向けイベント Driven Female Program の第4弾として体験会を開催。約10名が参加し、専属インストラクターとともにポルシェ車に乗車するドライビング体験やポルシェ初のフル電動スポーツカー「タイカン」のデモンストレーションラップ、EV をテーマにチームアクティビティのプログラムで構成された。

ドライビング歴はさまざまでも、性能を体感すると一様に安心感と特別感を抱く。かく言う私も、20年ぶりにハンドルを握ったにも関わらず、ポルシェ車の懐の深さに、スポーツカーに対する概念が変わった。

(写真提供:PEC Tokyo、取材:樋口 陽子)

女性ドライバー向けイベント Driven Female Program

フリーフィング



PEC Tokyo のコース説明やインストラクターによるドライビングの mindset などを用意してスタート

ドライビングプログラム



コース走行のほか、横滑り防止装置の機能体感によるドリフト体験で学ぶなどポルシェ車の機能をフル体験する

タイカンデモンストレーションラップ



ポルシェ初のフル電動スポーツカー「タイカン」のデモンストレーションラップで加速の滑らかさを体験

EV 講座・チームビルディング



「タイカン」のデモ体験のあと座学での EV 講座はすんなりと頭に入る。EV テーマのチームビルディングも実施

Pick up the Words!

NFT で変わる!? web3 時代の イベント主催・運営



宮下 大佑さん (チケ男 / TicketMe) 株式会社チケミー

日本初の NFT チケット販売プラットフォーム「TicketMe」を提供する(株)チケミーで代表取締役を務める宮下大佑さんがゲスト。日本初の NFT チケット販売プラットフォームを創業したワケや「TicketMe」の可能性、ローンチ後の反応、親和性が高いイベントについて語った。

ブロックチェーンに興味があり、紙チケット、電子チケットの次は NFT と考えて創業。チケットの転売でなく2次流通させることで、主催者も適正な利益が得られる。適性価格に至るまで流通させ、価値の流動性を高める。長期的には、ユーザーの参加履歴などがデータになって、マーケティングやレコメンドの指標としても使えるほか、コミュニティ機能ももてる。(10月21日の配信より)

石川県出身 早稲田大学政治経済学 2 年在学中。2020 年、大学入学と同時にアパレル EC サイトを起業。半年間運用したのち、個人に事業譲渡。その後独立系 VC の East Ventures にてインターン。2022 年 6 月、web3.0 時代のインフラを作ることを目指し、日本初の NFT チケット販売プラットフォーム「TicketMe」を提供する株式会社チケミーを創業。代表取締役に就任。



月刊イベントマーケティングの公式 YouTube チャンネルでは、イベント関連のキーパーソンをゲストに招いて「コース・よーこのミューートを解除!」を毎週金曜日の 12 時から 30 分間お届けしています。10月のゲストは、7日インテックス大阪 近藤秀樹さん、14日 株式会社マグネット佐藤勇介さんほか。

EVENT MARKETING

FREE PAPER

読者Profile

大手メーカー・メーカー

▶年間イベント件数:約20件
デジタルマーケティングと
オフラインを組み合わせて
販促とファンづくりに

製薬会社 ミーティングプランナー

▶年間イベント件数:100件超
業界のファーストムーバーとして
異業種のトレンドを知り
講演会に活かしたい

IT 企業向け マーケティングサポーター

▶年間イベント件数:約150件
イベントマーケティングに関わる
テクノロジーやツールについて
情報収集したい



特集

イベントマーケティングのトレンドを国内外の事例や動向から分析し、メーカー・イベントの皆さんと共有します。



国内・海外ニュース

ツールやテクノロジーの最新情報、開催直前概況・事後レポートなどを紹介します。



コラム

幅広い視野と独自の視点、経験をもつ著名人が執筆します。



インタビュー

リアルコミュニケーションを楽しくをテーマに話題の方々ほか、インベーター、イベントメーカー、主催者の声を収録。



調査・レポート

効果測定や開催状況の集計、効果最大化の手法など、face to faceを科学するレポートをお届けします。

毎月30日発行

定期送付申し込み

発行所: 株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9
ABCビル 5F
TEL03-6721-5303
sofu@event-marketing.co.jp



主催者インタビュー

SPORTEC Nagoya2022

地場産業との強い絆と展示会価値向上の戦略



今年10月に開業したポートメッセなごやの新第1展示館で、開催される SPORTEC Nagoya2022 について、その見どころや、展示会を各地域で開催する意義と手法について同展を主催する TSO International (株)代表取締役の佐々木剛さんにうかがった。先日発表したエンディング産業展 M&A の経緯の話題にも触れている。

TSO International 株式会社 代表取締役 佐々木 剛さん

11月9日から3日間ポートメッセなごやで「SPORTEC Nagoya2022」を開催します。昨年6月の名古屋初開催に次ぐ2回目となる今回は、新第1展示館が会場となります。

同展はスポーツ・健康産業に関わる有力企業350社(同時開催展含む)が集まる中部地区最大の専門展です。スポーツ・健康マーケットはアフターコロナの市場の中で最も投資が活発で、産業の成長が見込める有望な市場です。

会期中には、「Wellness & Beauty Nagoya 2022」、「レジャー & アウトドア Nagoya2022」、「第3回感染症対策総合展」など、関連性の高い展示会が同時開催します。

会場には、スポーツ・健康業界への新規参入や投資を考える2万5000人が集まり、製品を手に取り、サービスを体験して、対面の商談による信頼関係を構築する場となります。

名古屋開催の意義と展示会の価値

展示会運営の売上は、開催規模の大小によって変わりますが、運営経費はそれほど大きな変化がありません。つまり市場規模が大きい東京で開催することが最適で、そのため多くの展示会が東京で開催されていま

す。

SPORTEC を東京に続いて名古屋で開催する理由の1つが、愛知・中部地区はホリディスポートクラブやアイレクス・ザ・クラブといった、地場で展開しているフィットネスクラブや、アルペン・ヒマラヤスポーツといった企業の本社が多いことです。私どもは、地域企業の産業競争力を高め、地元の経済振興を支えることを使命と考えています。ステークホルダーとの強い結びつきこそが展示会の価値と言えるでしょう。

規模拡大だけではない事業譲渡含めた成長戦略

どのように展示会の価値を高めるか。そのために、必ずしも主催でなくても良いと考え、「エンディング産業展」の東京博善への事業譲渡という形になりました。

展示会の専門会社である私どものプロフィットは、出展料金など展示会での収益がほとんどですが、斎場の運営など祭事事業を展開する広済堂グループの東京博善にとって、展示会を主催することは、多くの事業でのシナジーを生みます。

私どもは展示会の売却益が得られるほか、運営ノウハウを活かして同展の運営をサポートしていくことで、



SPORTEC の会場

主催とは違うビジネスモデルが成り立つので、Win-Win ですね。

海外では展示会の M&A は多いのですが、日本ではあまり見られません。しかし、成熟産業の展示会などグロースしないものは、売却して成長分野の展示会に集中し、規模拡大ではなく収益性を向上するというのも一つの戦略だと思います。それが日本の展示会産業の活性化につながるのではないのでしょうか。

開催概要

名称：展示会名
SPORTEC Nagoya2022

会期：2022年
11月9日(水)～11日(金)

時間：10:00～17:00

会場：ポートメッセなごや
新第1展示館

入場：完全登録制

※オンライン事前登録が招待券持参が必要

□本社 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-7
TEL 03-3409-3331 FAX 03-3409-3827

会場施設情報

産業振興にコミットする東京たま未来メッセ

10月14日に開業した「東京たま未来メッセ(東京都立多摩産業交流センター)」は京王八王子駅から徒歩2分、JR八王子駅から徒歩5分の好アクセスと無柱約2400㎡で天井高10mの1階展示室の使い勝手の良さ、リーズナブルな料金が特長の展示施設。早くもイベント関係者の注目を集め、利用に関する問い合わせが相次いでいる。

東京都が昨年3月に策定した「未来の東京」戦略で同施設は、産業振興の拠点の1つだ。そのため展示会や MICE イベントの会場としてだけでなく、中小企業を中心とした多摩地域の産業支援の拠点となっている。

会場運営スタッフとは別に、産業支援を行う専従のコーディネーターを配し、機械工業、人気の江戸東京野菜、桑都として栄えた繊維産業といった多摩地域の産業振興をソフト面から支える。

八王子は約25におよぶ大学がキャンパスを構える学園都市でもある。産学連携や、卒業後の学生やスタートアップ企業と地元企業を結びつける役割も期待されている。

11月11日(金)と12日(土)に



多摩織をイメージした1階展示室の天井

は、先端技術分野・社会課題解決に向けたイノベーション創出の機会として、「八王子ものづくり EXPO2022」も開催される。地元企業の70社の出展や専門家によるセミナーのほか、工場見学として人気の島田電機製作所の「1000のボタン」や Wing ソーラーカーレースで優勝した工学院大学の機体の乗車体験、ミニトマト収穫体験ができるスマート農業の展示、東京工業専門学校による AR を使用した溶接体験などの特別企画も用意されている。ビジネスマッチングだけでなく、子どもから大人まで楽しみながら地元の産業に触れるきっかけとなる。同 EXPO の様子は、本紙の YouTube チャンネルでレポートする。



東京たま未来メッセ副センター長
松浦 一さん

福岡大名ガーデンシティに 2023 年春開業

DAIMYO CONFERENCE

日本コンベンションサービスは、「福岡大名ガーデンシティ」(福岡市中央区)内に開業するカンファレンスフロアの運営を開始。施設名は「DAIMYO CONFERENCE (ダイミョウカンファレンス)」で、2023年4月に開業に向け、10月13日に予約受付を開始した。

福岡市営地下鉄空港線天神駅から徒歩3分、「福岡大名ガーデンシティ」オフィス・ホテル棟の3、4階に位置し、全9室、部屋面積753㎡、

最大収容人数430名のカンファレンス施設で、国際会議やセミナー、記者会見やパーティ、企業研修等、多様なビジネスイベントに対応する。



「DAIMYO CONFERENCE」の4階 LINK ROOM1 (288㎡) のイメージ

博覧会・展示会の企画に参画させて下さい。



飯田電機工業株式会社

<http://www.iidae.co.jp/>

- イベント事業本部 〒136-0082 東京都江東区新木場1-8-21
TEL 03-3521-3522 FAX 03-3521-3524
- 千葉事業所 〒261-0025 千葉県千葉市美浜区浜田2-38 轟張ビル
TEL 043-273-2441 FAX 043-273-2531
- 池袋サンシャイン事業所 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-1-4 文化会館3F
TEL 03-3982-9551 FAX 03-3982-9564
- 大阪事業所 〒550-0011 大阪府大阪市西区阿波座1-9-9 阿波座パークビル
TEL 06-6543-2880 FAX 06-6543-2884
- インテックス大阪事業所 〒559-0034 大阪府大阪市住之江区南港北1-5-102 インテックス大阪内
TEL 06-4703-5401 FAX 06-4703-5402
- 本社事業本部 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-7 表参道IIDAビル
TEL 03-3409-3333 FAX 03-3409-0104
- 東北事業所 〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町2-10-17 仙台一番町ビル6F
TEL 022-716-2077 FAX 022-716-2078

世界と出会う、未来をつむぐ。

TOKYO TAMA MIRAI MESSE

東京たま未来メッセ
東京都立多摩産業交流センター

電話番号 042-697-0802 MAIL tama.info@tamaskc.metro.tokyo.jp
WEB <https://www.tamaskc.metro.tokyo.lg.jp/>